

afterW

of Bangkok

写真：岡村昌宏 文：むらじゅんこ

イタリアのデザイン会社「コロ
ボスティール」が手がけたロコ
コ調レセプション。壁中央に装
め込んだマカオイト(孔雀石)は、
「ザ・レヴェラー・サイゴン」のシ
ンボル。ピーコックに由来する。

Special Feature
Phong cach Sai Gon

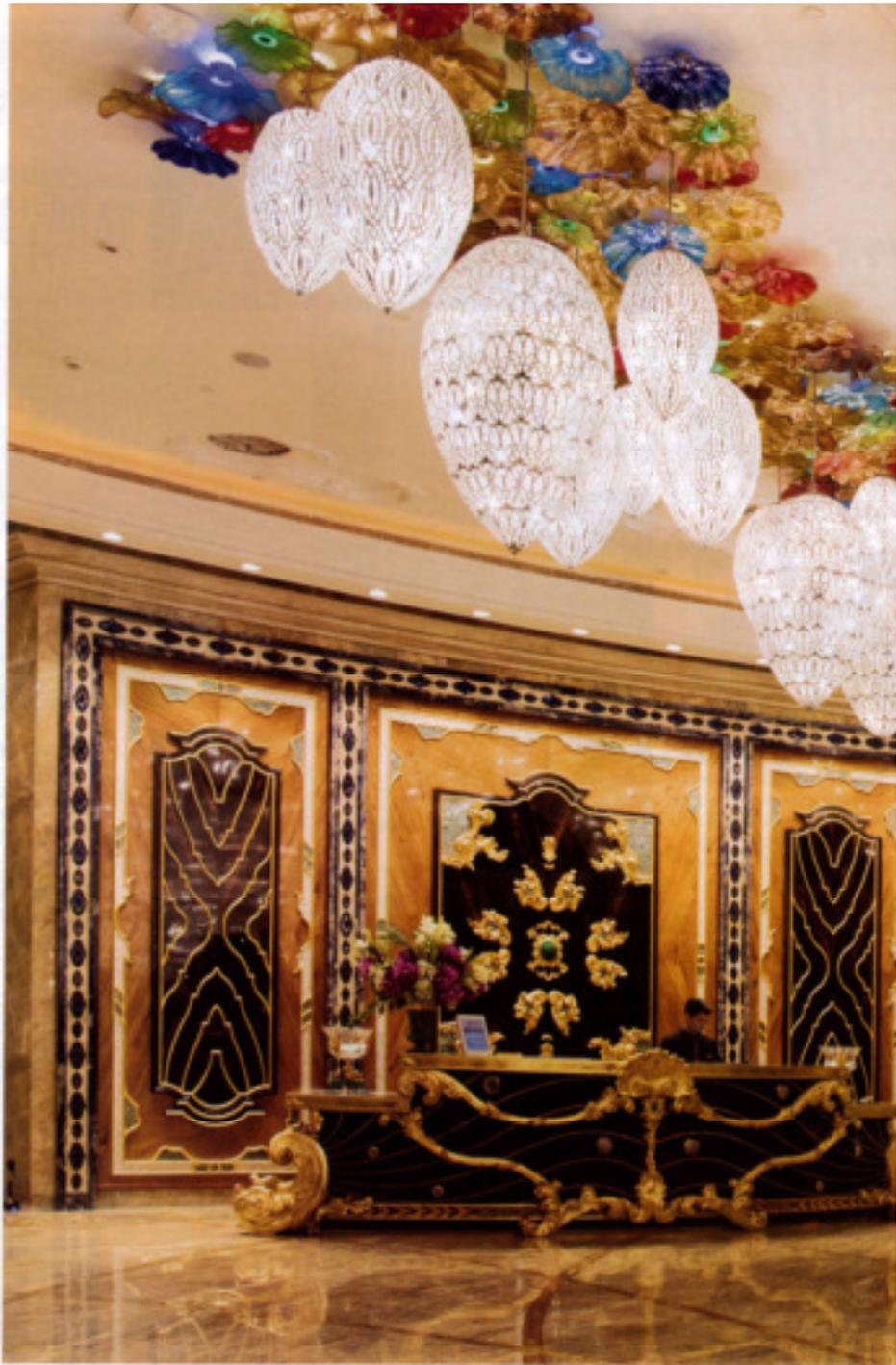
Photographs by
Masahiro Okamura (Crossver)
Text by
Junqo Nimura

相容れることのない様式が共存し合い、独自の調和を保つ。複数の要素が、次元を超えたさらなる高みを志向する。その弁証法的な作法とエネルギーこそが「サイゴンらしさ」なのだろう。

特集

// 越洋折衷 //

サイゴンスタイル



Chương 3

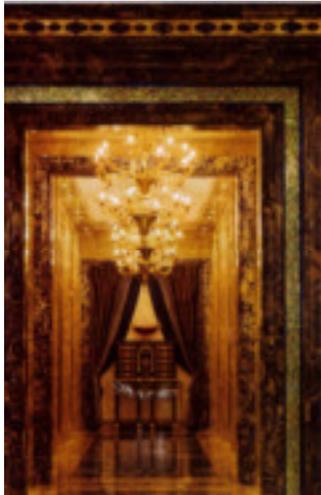
『新しいサイゴンのスタイル』
『ザ・レヴェリー』

ルネサンス、モダニズム、バロック、エタレクラ、タリントン、様々なスタイルが共存するこのホテルは、この街により似合っている。相反する要素が矛盾せずに同居する、トナム最高級のホテル『ザ・レヴェリー・サイゴン』へ。

Special Feature Phong each Sof Gon



上:プロヴァッソの「ザ・レヴェリー・スイート」も、カッシーナの「ザ・サイゴン・スイート」もグループレックス。窓からはサイゴンが一望できる。中:シュールレアリストとして知られるメレット・オープンハイムのテーブルは鳥の足がユニーク。下:フランケ・ロイド・ライトのダイニングテーブル。



上:バスルームには、鏡や植物など、ベネフィアンモザイクで有名なシナス社による手作業の作品が華を添える。東京・南青山にも代理店がある同社は、最高級の原材料を使っており、その発色の美しさに絶了される。左:エレベーター乗り場までも、とにかくゴージャス。内装はコニャックのような金色の琥珀が。

ザ・レヴェリー・サイゴン

The Rivierie Saigon
22-26 Nguyen Hue Blvd. #
57-68F Dong Khai St., District 1, HCMC
+84 8 3823 6688
<http://www.therivieresaigon.com>

左:まるで北イタリアの城にいるような気分になるプロヴァッソの寝室。ベッドリネンだけでなく、タオルやガウンもフレッチェイ社のもの。右:バスルームには、シナス社のハンド・レイド・モザイクが、国籍問わず女性たちに人気が高いという。





キーン・ナガボルトローナ・フラウ
による「ザ・サイゴン・スイート」の
リビングルーム。「ヴェルヴェル」と名
づけられた本棚は、自宅のために
フランコ・アルビニが作った作品。



ザ・スパ

THE SPA
+84 8 3623 6688
<http://theremission.com/the-spa>

1200平方メートルもの広々とした空間のザ・スパ。個室10室のほか、ネイルスペースと美容室も完備。マイナスイオンのスチームミストや、ヒマラヤ岩石が埋め込まれたサウナルームも快適。スタッフも英語が堪能で、ホスピタリティにあふれる。タイリタイからすれば、どのコースも比較的リーズナブルだ。



上: マッサージのための竹、チュー。中: 欧米でも人気の熱石療法のベトナム版「ヤッホイ」。一般家庭にもセットが常備されているほどポピュラー。下: 竹マッサージは、リンパの流れの改善だけでなく、二の腕やふくらはぎの瘦身効果、セルライトにも。温めてホットストーン的に使うことも。



いずれのスイートも、ベントレー、マイバツハ、ロールスロイスのいずれかで空港送迎サービスがあり、英回執

確かに豪華絢爛だ。だが、このホテルでは「ラグジュアリー」という言葉が陳腐に聞こえてしまう。「ザ・レヴェリー・サイゴン」は、探検を度外視し、本物を志向するために惜しげもなくコストをかけている。

イタリアのプロヴァッソ社が手がけた客室「ザ・レヴェリー・スイート」を見てみよう。プロヴァッソは、日本でこそ知られていないものの、イタリアのクラフツマンシップを受け継ぐブランド。4人兄弟のファミリーで織り成すクラシカルなハンドメイドの製品は、すべて16〜17世紀のルネサンス資料の丹念な研究によって考案されたデザイン。ブランド創業は1970年と新しいものの、先祖代々引き継がれた伝統工芸の息吹が伝わってくる。

重厚でクラシカルなムードのプロヴァッソと対をなすのが、同階にある「ザ・サイゴン・スイート」。ここには、カッシーナ&ポルトローナ・フラウによる客室で、機能と合理性を重視したシンブルなモダンイズム空間。フランク・ロイド・ライトによるダイニングテーブルやチェア、フランコ・アルビニの本棚、シャルロット・ペリヤンとル・コルビュジエの椅子、メレット・オッペンハイムのサイドテーブルなどに囲まれ、まるでミュージアムの中で暮らしているような気分になれるのはうれしい。



右:手前は、「龍洞特色紅米腸粉」、エビを巻いて蒸した紅米粉の中にタリスビーな野菜が入っている。外はもっちりまシャキシャキ、中はプリプリ。ぜひ試されたい一品。奥に見えるのは、チャーシュー餅「高麗叉焼包」、上:蝦餃（ハオオ）と小籠包2種。味覚にも歯ごたえにも細心の注意が払われている。これぞ、トップ点心師の仕事！



宮廷料理をサービスするレストランにふさわしく、食器類は最高級のものを選択。サービスプレートは、なんと、1セット30万円以上するという。個室に掛けられたアンティークの鏡も味わい深い。



3色の異なる薄餅に包まれた北京ダック「北京片皮鴨配三色薄餅」。自分で包まずとも、給仕係が上品に食べやすく巻いてくれる。

ロイヤル・パビリオン

The Royal Pavilion
+84 8 6268 2888
<http://theroyalpavilion.thereveriesigon.com/>

また、本場ナポリのピザ職人が焼いたピザを堪能できるイタリアンがホテルにあるのもうれしい。
夢のような生活を毎日送るのは無理だろう。でも、ここに泊まれば、誰でも夢の生活を体験できる。目を閉じてみるドリームではなく、目を開けてみる。レヴェリー（夢想）を。

レストラン「ロイヤル・パビリオン」は、世界屈指の技術を持つ点心師の腕が光る港式餐厅。この街で最も美味しい中華だと、すでにアジアのセレブやフリーダイたちに高評価されているこの店は、味や食感はもちろんのこと、視覚を重視する人、健康にこだわる人、サービスを重視する人にも満足してもらえるはず。点心は、長旅で疲れ気味の胃に優しいだけでなく、想像を超えるクオリティの高さ。

事養成学校で修業を積んだパトラーたちを配置することができる。
よいホテルには、心地よいスパと美味しいレストランが必ずあるものだ。
手先の器用さで知られるベトナム人セラピストの手は、生き物のように舞い、メロディを奏でるように、ていねいに身体をほぐしてくれる。竹棒（チエー）を使ったマッサージは、太さの異なるベトナム産の竹筒を転がしながら押し当て、ツボを刺激する。ヤフホイ（碧玉療法）は、疲労回復、アトミックスに効果抜群の民間療法。使われるのは、トリートメント効果の高い英国「イラ」やアイスランドの「ヴォヤ」などの精油だ。



ベトナム航空で便利で快適な旅を

ベトナム航空は、世界29都市と国内21都市をカバーするベトナム最大の航空会社です。日本では、東京（成田・羽田）、大阪、名古屋、福岡の4都市からハノイ・ホーチミンへ、また成田からはダナンへの直行便を運航しており、インドシナ諸国への乗り継ぎもとても便利です。

2016年1月1日からは成田ーハノイ線に、2月1日からは成田ーホーチミン線に最新鋭の787-9ドリームライナーを導入。また、2015年にはキャビンアテンダントの制服がリニューアル。以前の落ち着いた真紅の民族衣装アオザイからグリーンとイエローの明るく爽やかな色合いのアオザイへ。最新機材のファシリティとクルーの温かいおもてなしでベトナムの旅をご堪能ください。



国際的な航空会社の格付け機関であるスカイトラックス社により4スター認定を2016年7月に獲得。

お問い合わせ ベトナム航空
<http://www.vietnamairlines.com/>



トリュフ入りピザ。ナポリからやってきた職人が、ナポリから取り寄せた窯で焼き上げるピザは最高。ナポリ由来のピザのパン種も代々受け継がれてきたもの。カジュアルなピッツェリア「ザ・ロング@タイムズスクエア」は1階にある。



ピッツェリアの地下には、落ち着いた空間で会話を楽しみたい人のための本格派レストラン「R&J ラウンジ&レストラン」が、ベニスのパラスに連なっているようなモザイクと大理石が印象的。ドレスコード有り。12歳以下不可。

R&J ラウンジ & レストラン

R&J Lounge & Restaurant
 +84 8 3823 6688
<http://rjitalian.themerveilsgon.com>